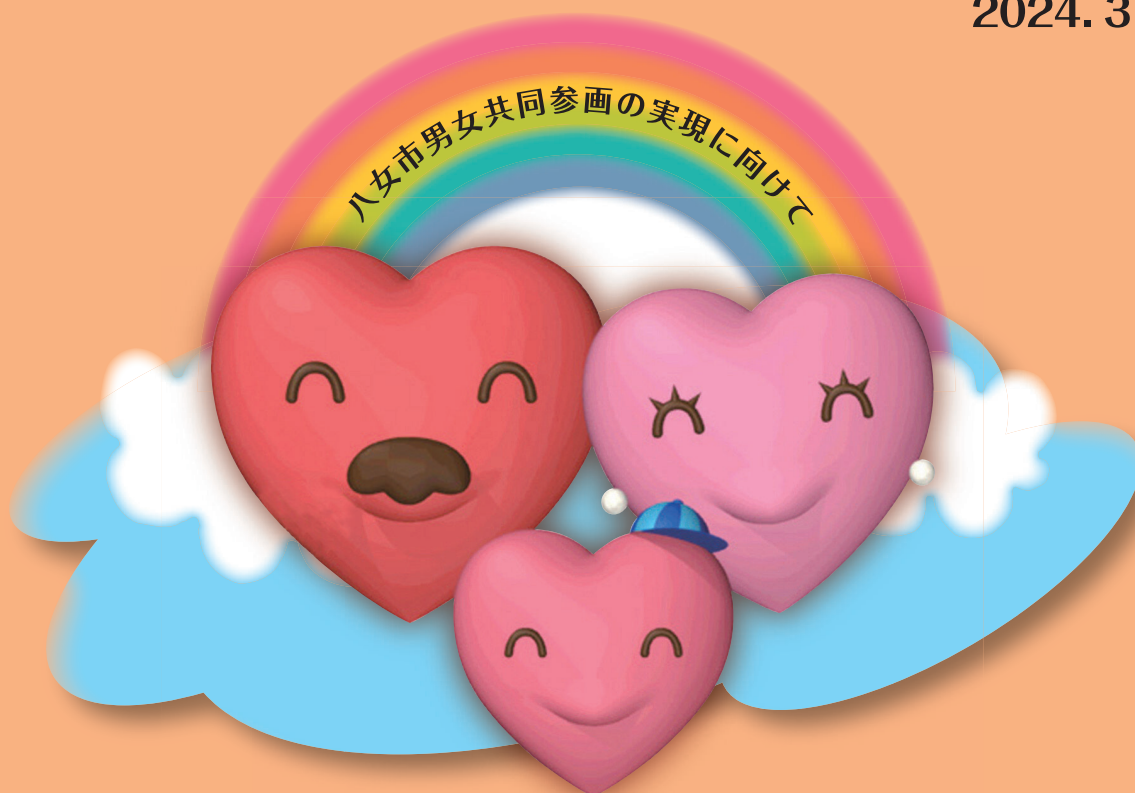


# 個性が輝く まちが輝く

## とっぎゃざー

みんな仲良く一緒に

2024. 3. 第30号



### よかひとリレー

城 志穂さん (黒木町) にインタビューしました! ..... 2~3

☆男女共同参画推進まちづくり団体活動報告 ..... 4~6

☆編集後記 ..... 6



情報誌「とっぎゃざー」は、男女ともに個性と能力が十分に発揮できる八女市を願って名付けました。

発行：こらぼれーと※(八女市男女共同参画情報誌編集委員会)  
八女市 人権・同和政策・男女共同参画推進課 ☎0943-23-1314

※こらぼれーと (共同)  
情報誌を編集するメンバーのグループ名です。よろしくお願いします。



新型コロナウイルスによる  
人権侵害をなくそう!

正確な情報に基づく、冷静な判断と正しい行動を心がけ、  
新型コロナウイルスの悪影響を断ち切りましょう。

「八女伝統本玉露」生産者  
日本茶インストラクター

城 志穂さん



よかひと  
リレー



### プロフィール

1981年生野村生まれ、  
星野村育ち。福岡市で10年  
生活して星野村の水のおい  
しさを実感し、帰省する。  
八女市黒木町に嫁ぐ。夫・  
両親・小学生・保育園児の  
子どもと6人家族。数年前  
に全国茶品評会玉露の部で  
一等一席を受賞。日本茶イ  
ンストラクターの資格を持  
つ。

——煎茶ではなく、あえて玉露  
に特化されているのはなぜで  
すか？

お茶は、嫁ぎ先のおじいちゃん  
の時代からやってきたと聞いて  
います。今、お茶を栽培して  
いるところは、黒木町北大淵の  
中でもすごい山奥です。そこで  
特に煎茶をしてもそれほど収益  
にはなりません。ただ北大淵は、  
星野村に負けない位「八女伝統  
本玉露」が盛んなところだと、  
私は星野村出身ですけと思っ  
ています。実は私の実家も「八女  
伝統本玉露」を栽培してまして、  
玉露作りは、やはり土地と自然  
が大事だなと思っています。た  
またま出会った夫の家が「八女

伝統本玉露」を作られていまし  
た。私と夫は、「今からは、八  
女で大事なのは『八女伝統本玉  
露』を地域ブランドとして守っ  
ていくこと、高級なお茶、静岡  
とか鹿児島に負けないようなお  
茶を作るには、高級な玉露をこ  
れから先守っていくのが大事  
じゃないか」という考えで一致  
しています。煎茶と玉露で特に  
違うのは、玉露は手間ひまが非  
常にかかり、手作業がほとんど  
ということ。玉露の中でも  
私と夫が特に力を入れているの  
が「八女伝統本玉露」です。収  
穫も手摘みです。全国品評会に  
出品する時は、「折り摘み」と  
いう本場に丁寧な摘み方をしま  
す。例えば、30人が半日かかっ  
て40キロしか摘めません。県の  
品評会に出品する場合は、「折  
り摘み」ですと人件費がもの  
すごくかかるので「しごき摘み」  
という摘み方でやります。ベテ  
ランの方1人が半日かかって12  
キロほどです。今年は12人で1  
日100キロ摘みました。機械  
摘みとは違って人件費も手間ひ  
まもかかります。ただその甲斐  
もあって、「八女伝統本玉露」  
の「あまみ」と「つまみ」は今、  
海外でも大変注目され高い評価  
を受けています。



すまきの中での作業



日光を遮るためのすまき

——全国茶品評会玉露の部で一等一席を受賞されたとお聞きしていますが、そこまでの道のりをお聞かせ下さい。

私の実家は品評会を目指すという訳ではなく、市販茶摘みでした。お茶は、私の祖父母の時代から始めています。祖父が戦地から怪我をして帰ってきた時、何か地域貢献ができないかということ、祖父は黒木町笠原出身だったので、自分が戦地で活躍できなかった分、何か八女の特産品を作りたいと言つて、星野村に引越しをしました。そこから玉露作りを始めたようです。その祖父の思いを私の家族が自費出版しました。私はその本を読んだり、家族の話を聞いて、祖父の「八女伝統本玉露」への思いを知りました。それがものすごく頭と心

に響いて、今も私は頑張っているんだと思います。星野村はもとも玉露で有名だったので、夫は自分が住んでいる「黒木」の名前を上げたい、「黒木」の知名度を上げたいという想いで、常に上を目指してきました。そうすることで値段も上がるし、おいしいお茶、いいお茶もできると思っています。夫と私は「地域貢献したい」「名前を残して高く売りたい」「全国的に自分たちの名前を売り、いろいろな方と交流したい」という思いを持っています。そういう2人のまとまりがあるからこそ、玉露作りに頑張っているんだと思います。夫は以前、トラックの運転士をしていて、お茶との兼業でした。それでもう1つ上のランクの賞がとれませんでした。その後お茶一本の専業と

すると、翌年には念願の全国茶品評会玉露の部一等一席を受賞することができました。

——お茶の仕事は1年を通してお忙しいと思いますが、仕事をしながらの子育ては大変ではないですか？

夫の両親と同居しているので、小学生と保育園の子の面倒を見てくれています。それで私たちは、日中バリバリと働けます。大変助かっています。

——これからだんだんと寒くなってきましたが、お仕事中、お茶はどんなふうになら飲んでいらっしゃいますか？

この時期、山に行く時は、ポットと急須を持って行きます。雪が降る時でも山の作業がある時は本当に寒いので、体を冷やさない様に熱々のお茶を飲みま

す。又4月、5月の暑いお茶摘みの時期でも、熱いお茶を飲みます。



## 「多様な男女まちづくり委員会」

10月11日(水) 於：再春館製薬所・視察研修 (熊本県益城町)

## 「多様な人材が安心して働ける環境づくり」

古賀 奈穂

再春館ヒルトップは、受注・製造から発送までを行う製販一体の工場です。ここで働く約1000人の社員の内約90%が女性で、育児中の女性が長く活躍できる環境作りや障がい者、外国籍人材の積極的採用が評価され、令和元年度に『くまもとブライト企業所(多様な人材の活用推進部門)』を受賞しています。

ここではコールセンターをはじめ、研究開発、海外担当などの関連部署がワンフロアで働き、社員の交流が活発におこなわれていました。互いの特性や立場、文化を理解し深め合いながら働くことが、よりよい商品開発や顧客ニーズへの対応に繋がり、社員のモチベーションを高めるという好循環を生み出しているそうです。そうした長年の取り組みが社員専用保育園や寮の完備、通勤バスの運行、社員食堂、クラブ活動の支援など、多様な人材がいきいきと働く環境づくりに活かされ、最近では食後の昼寝を習慣とする外国籍の社員

のために昼寝スペースを設けたそうです。また、太陽光発電設備や食堂・工場での廃棄物の再利用などの環境にやさしい取組が安全な原材料の確保に繋がり、良質な商品を製造する好循環をもたらすのではないかと考えているとのことでした。

私たちは自然や人、物と様々な環境に取り囲まれて生活していますが、ひとつの「よいこと」が繋がり結びつき合えば大きな「よい循環」に発展できるのではないかと、小さな行動や思いやりの繋がりを大事にしていきたいと思う研修でした。



## 上陽町男女共同参画推進委員会

上陽町男女共同参画推進セミナー

あなたにもできる!

「いつも」と「もしも」のくらし安心術 小林 久仁隆

11月4日(土)  
於：上陽公民館

歌う防災士 志保ママとして全国各地で講演されている柳原志保さんをお招きし、講演会を行いました。

ご自身が、東日本大震災、熊本地震、熊本豪雨と3度の大地震を経験されています。その経験を活かして私たちが災害時にできる「いつも」と「もしも」に役立つ「くらし安心術」を、さわやかな歌声とともに教えていただきました。私たちが普段の生活でできることとして、例えば散歩の時に避難所までの道のりや自宅周辺の電柱・電線・川・土手・用水路・ブロック塀等の危険な場所はないかを点検すること。又非常時に役立つものを事前に揃えておくこと。例えばビニール袋・トイレ用凝固剤・ミニライト・小さな呼び笛等。

災害が起きる前から知っておくという情報として、今、自分が住んでいるところの「災害発生想定情報」をあらかじめネッ

トで調べておく事です。実際に避難所に避難した時には、そこはホテルではありませんので、何でも誰かがやってくれる訳ではありません。自分で用意できるものは、自分で持参してくるという事です。

今回の講演であらためて災害時における各自がやるべき事を気づかせてくれました。「花は咲く」を歌われながらの講演は楽しく明るく有意義なものとなりました。



## 星野地区男女共同参画推進委員会

### 男女共同参画市民企画講座

『人生を美味しく食べよう』  
『人生は家事である』 角田 豊美

11月25日(土)  
於：星野行政福祉センター  
大集会室

料理研究家の山際千津枝さんを講師に迎え、楽しい講演会を行いました。山際さんは星野村との関わりが長く、地域の人達との温かい交流が続いています。そんな山際さんの魅力は何と言っても、明るく気さくな人柄と豊富な経験や知識を活かした軽妙な語り。

今回も「食と人生」について分かりやすく、ユーモアたっぷりに聞かせてもらいました。まず、最初に「家事は習慣づけること」、「男性でも女性でも習慣づけることで家事力は身につけられる」と言われ、その通りと納得。男女協力し合って家事をすれば、それだけでも幸せになれるそう。子や孫もそんな習慣を自然と身に付け、受け継いでしよう。

また、正しい知識もとの食習慣の大切さについても述べられました。和食の力や素晴らしさを再認識しました。



多く見られました。嬉しいことです。最後に多くのアンケートの中から1つを紹介。「自分の食べた食器は自分で洗う。家庭円満の秘訣は皆がお互いを助け合いながら生きていくこと。」(男性70代以上) 男女平等の認識は「家庭」からですね。



立花庁舎市議会全員協議会室で「女性参画・次世代育成」をテーマに、市議会議員との意見交換会を行いました。総務文教・厚生常任委員会と今回初めて建設経済常任委員会の議員も参加しての10名と男女が輝くネットワークやめ会員と加入団体委員の13名が出席しました。



世界における日本のジェンダーギャップ指数の低下問題、子どもの貧困問題に対する子ども食堂の役割、支援する担当課がバラバラでなく総合的に支援する担当課の必要性などの意見が出ました。今後は、子ども議会に続いて女性議会が開催できたらと思います。

## 男女が輝くネットワークやめ

### 市議会との意見交換会

「女性参画・次世代育成」 西村 直樹

10月4日(水)  
於：立花庁舎

## 男女が輝くネットワークやめ

2023年先進地視察

福津市津屋崎千軒を訪ねて 下川 京子

10月28日(土)  
於：福津市津屋崎



福津市津屋崎のまちづくりを視察しました。津屋崎は、塩の生産と廻船の立ちよる商港として栄えた街です。しかし、現在では集落600戸のうち60戸ほどの空き家があるといわれています。今、全国から注目を集めているまちづくりの中心を担っている津屋崎ブランドを訪ねました。スタッフの古橋さんに説明をうけ、その後まちを散策しました。「本当の暮らし・働き方・つなが

りを取り戻し、未来につなぐプロジェクト」というコンセプトで活動してあります。まちづくりの1つ目の軸は、「古民家再生」を進めていることです。2つ目の軸「移住支援」は、手始めに「福津・暮らしの旅」を開催し、この9年間で数百人が移住をしてこれたそうです。しかも、若い世代・子育て世代が中心になっているようです。街を歩いていると、人との距離が近いように感じられ、子育てには向いているように思いました。3つ目の軸「企業支援」は、移住者や地元の人向けに「ブチ起業塾」を開き、あたらしい仕事の作り方を伝えているそうです。全てのこのベースになっていますのは、「対話」だそうです。多様な人とお互いの価値観を認め合い、協力していくための重要な要素、「対話する場」を積極的につくる事に努力しているとこの事



でした。「ゲストハウス」があり、宿泊者や地元の人たちが朝ご飯を一緒にとり、交流する場になっています。一度の訪問では、津屋崎の魅力に十分に触れることはできないと感じました。

## 編集後記

昨年黒木町の文化祭が50周年を迎えました。実のところ52年目になるのですがコロナの影響で周年祭が延び延びになっていました。「50年のあゆみ」の冊子も黒木文化連盟により発行されました。地元出身の作家安部龍太郎、女優黒木瞳の祝詞も載せています。10月3日から6日迄、黒木開発センター（黒木体育館、ふじの里）で行われました。私は会員の1人としてコーラス、朗読、美術に参加しました。お昼には500円で地元の手作りランチ（くちなし御飯、だご汁、盛り合わせ皿、漬物）が好評でした。黒木町は芸事が盛んな町でもあります。演目では吟詠、舞踊、民謡、邦楽、コーラス、朗読、カラオケ等の芸能発表と同時に、美術、書道、写真、華道、短歌、俳句、手芸、木工等の展示もあり、又茶道のお点前もありました。沢山の女性の活躍が嬉しい発見でした。会場では「黒木音頭」「黒木小唄」「だご汁の歌」を合唱しました。これらの歌はもともと広まって歌われるといいですね。振り付けがついてお祭り等で踊ったり出来ればもっと楽しめるでしょう。私はこの八女市男女共同参画のお手伝いをする事で私の地元黒木町を始め、旧八女市、立花、笠原、星野、矢部、上陽の方々との触れ合いが出来て充実した活動の日々になればいいなと思います。

私自身の学びの場である事は確かです。新しい発見に感動があり、この男女共同参画の出会いに感謝しています。

水本賀代子